

老年齒科医学 用語辞典

第3版

Dictionary of Gerodontology

一般社団法人

日本老年齒科医学会 編

Japanese Society of Gerodontology



医歯薬出版株式会社

あ

RRS あーるあーるえす**rapid response system**

院内心停止の発生を防ぐために、事前に患者の変化を発見，介入し，予後を改善するシステム。心停止が起きる患者の多くは，その前に意識，平均動脈圧，脈拍数，呼吸数になんらかの異常所見があるので，集中治療医，看護師，理学療法士などの集中治療専門のチームが適切な処置を行う。そのためには，患者急変の発見，患者急変に対応するチーム，実績の集積とシステムの成果のフィードバック，システムの設置運営の4つの要素が必要とされる。

RSST あーるえすえすていー**repetitive saliva swallowing test**➔ **同義語** 反復唾液嚥下テスト**IADL** あいえーでいーえる**instrumental activities of daily living**

高齢者の日常生活における能力障害を評価する指標のうち，買い物，食事の準備，簡単な家事，洗濯，電話，交通機関の利用，薬の服用，金銭管理など，ADLの障害よりもやや軽い段階での障害を示すための指標。手段的日常生活動作と訳す。高齢者の良好なQOLを達成するため

には，リハビリテーションや介護の場面で，ADLで評価する直接身体機能にかかわる身の回りの動作や移動に関する項目に加えて，IADLで評価する生活に関連する動作もあわせて十分に検討することが必要である。

同義語 手段的日常生活動作**関連語** ADL，生活機能**ICF** あいしーえふ**international classification of functioning, disability and health**➔ **同義語** 国際生活機能分類**ICD-10** あいしーでいーてん**international classification of diseases**

疾病および関連保健問題の国際統計分類のこと。国際疾病分類ともいう。異なる国や地域から異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録，分析，解釈および比較を行うため，世界保健機関（WHO）が作成した分類である。ICD-10が長く使用されてきたが，後継のICD-11が2022年2月にWHOにて正式発効したため，日本語版が完成次第，ICD-11が適用される。

関連語 国際生活機能分類**アイヒナーの分類** あいひな一のぶんるい
Eichner's classification

と

トゥースウェア とーすうえあ

tooth wear

酸蝕，咬耗，摩耗によって生じた歯の実質欠損。酸蝕は歯が酸によって化学的に溶解されること，咬耗は歯と歯の接触によりすり減ること，摩耗は歯以外の物理的な方法・手段によりすり減ることと定義されている。最近では咬合異常などバイオメカニカルな荷重のひずみによる歯質の喪失をアブフラクション（abfraction）として，トゥースウェアの要因に入れることがある。トゥースウェアは上述の病態が独立して生じる現象ではなく，各要因が同時にかかわった病的状態といえる。

関連語 酸蝕症（歯の）

統合失調症 とうごうしつちようしょう

schizophrenia (SZ)

主として若年から壮年期前に発症する。発症年齢や特徴により，破瓜型，緊張型，妄想型，単純型などの亜型に分類される。有病率は1%前後である。症状は，陽性症状（幻覚や妄想）や陰性症状（感情などの平板化，意欲の低下）がみられ，基本的には慢性的に進行し，「残遺状態」とよばれる状態に至る。統合失調症患者は口腔の清浄行動が適切に行えないなどの理由で口腔領域の種々の

疾患に罹患しやすいといわれている。また服薬の影響により，口腔機能の運動障害や唾液分泌低下，さらに咽頭反射が低下するという報告もある。

疼痛管理 とうつうかんり

pain control

おもに薬剤を用いて痛みをコントロールすること。術後では鎮痛薬の投与が中心になる。かつては，痛みは避けられず，耐えるものとの考えがあったが，近年は，治療中の局所・全身麻酔を積極的に利用したり，術中から術後にかけて麻薬性鎮痛薬，拮抗性鎮痛薬，非ステロイド系抗炎症薬も含めた薬剤で痛みをコントロールしてQOLの向上を図る疼痛管理が主流となってきた。

導尿 どうよう

urethral catheterization

尿道カテーテルを外尿道口から挿入し，尿道を通して膀胱まで誘導し，膀胱内の尿を排出させること。輸液管理のための尿量測定，膀胱内洗浄，前立腺肥大による排尿困難などの治療目的や尿路感染症検査，糖尿病や腎機能検査，尿路外傷の診断に使用されている。尿道カテーテル使用の合併症としては，尿道や腎臓の感染症，敗血症，尿道外傷，皮膚の炎症，膀胱結石，血尿などがある。

と

の維持改善といった包括的な口腔健康管理を行うことを目的としている。

同義語 高齢者歯科医療

老年者 ろうねんしゃ

elderly, geriatrics, old age, older adults

➔ **同義語** 高齢者

老年症候群 ろうねんしょうこうぐん

geriatric syndrome

高齢者に頻度が高く、治療と同時にケアが必要となる一連の症状所見。多臓器にまたがる症状であり、日常生活動作（ADL）を下げる要因となる。大きく3つに分けられる。

①おもに急性疾患に付随する症候で、若年者と同程度の頻度で起きるが、対処方法は高齢者では若年者と違って工夫が必要な症候群、②おもに慢性疾患に付随する症候で、65歳以上75歳未満の前期高齢者から徐々に増加する症候群、③75歳以上の後期高齢者に急増する症候で、ADLの低下と密接な関連をもち、介護が重要となる一連の症候群。加齢にともない、ほぼすべての臓器において形態的・機能的変化が生じ、生理機能も直線的に低下するといわれているが、その程度は、臓器によって異なり、また、個人差も大きい。さらに疾患発症の「閾値」の低下や抵抗力（予備力）の低下が加わり、

老年症候群を惹起する要因となる。

老年人口 ろうねんじんこう

aged population, aging population, (elderly population)

人口統計において、15歳と65歳を境界として年齢を3区分し、15歳未満を年少人口、15歳以上65歳未満を生産年齢人口としたとき、65歳以上の人口を老年人口という。この数値を用いて、老年人口割合、老年人口指数、老年化指数などの人口統計指数を求める。

老年人口指数 ろうねんじんこうしすう

aged dependency ratio

人口統計の指数の1つで、生産年齢人口（15～64歳）を100としたときの、老年人口（65歳以上）の比率を表したもの。社会が高齢者を養うときの負担の大きさを示す。老年人口指数は1970年に10.2だったが、その後増加の一途をたどり、2019年現在47.8となっている。少子高齢社会といわれるわが国においては、単に老年人口のみに着目するのではなく、生産年齢に対する従属人口（年少人口と老年人口の和）にも同時に目配りする必要がある。従属人口指数は、1970年から約30年間は40台で推移していたが、これは、その間増加した老年人口に対して、年少人口が低下して相殺した結

(付録) まぎらわしい用語の解説

一次医療圏、二次医療圏と三次医療圏

- **一次医療圏**…日常的な医療サービスが充足できる圏域。
- **二次医療圏**…総合病院、救急医療など専門的な医療サービスが充足できる圏域。
- **三次医療圏**…がんセンター、脳外科など高度専門医療が充足できる圏域。

一次予防、二次予防と三次予防

- **一次予防**…疾病になる前の段階のいわゆる予防（狭義の予防）。
- **二次予防**…治療を中心とした医療（早期発見・早期治療、障害の拡大防止）。
- **三次予防**…疾病により失った機能を回復するためのリハビリテーション。

健康教育、健康相談と保健指導

- **健康教育**…健康や疾病についての関心とともに予防の重要性に対する認識を高め、その具体的な方法や知識を広めることで、講演会や健康教室、放送や出版物を通じて不特定多数を対象とするもの。
- **健康相談**…健康や疾病についての関心とともに予防の重要性に対する認識を高め、その具体的な方法や知識を広めるとともに、特定のリスクや疾患、不安を有する者を対象として個別に行うもの。
- **保健指導**…健康に対する関心や疾病の予防、療養上の能力を高めるために行うもの。学校や職場で行われる健康教育や個別指導、医療現場で医師や歯科医師が行う治療上の助言、在宅などの生活の場で保健師・歯科衛生士などが行う介護、療養上の指導などがある。